さがみはら教育

No.170

Back Number List

号数	特集の内容	発行年月日
170 号	多様な教育的ニーズに応じた支援や指導のあり方	令和８年３月
169 号	教師の学びを self-change!!	令和７年３月
168 号	「学び続ける教師」とは？	令和６年３月
167 号	子どもたちの可能性を引き出す学び～個別最適な学び×協働的な学び～	令和５年３月
166 号	教職の魅力×教育の力	令和４年３月
165 号	９年間の学びのつながり	令和２年 12 月
164 号	新学習指導要領の実施に向けて	令和元年 12 月
163 号	始まるよ　プログラミング教育	平成 30 年 12 月
162 号	一人ひとりが大切にされる教育～子どもを取り巻く状況から考える～	平成 29 年 12 月
161 号	アクティブ・ラーニングを探る～資質・能力をはぐくむ授業づくり～	平成 28 年 12 月

【バックナンバー格納場所】

相模原市教育センターホームページ＞さがみはらの研究＞さがみはら教育＞バックナンバー

https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/hp_jpage6/index.php?page_parent=270

編集後記

さがみはら教育　第１７０号はいかがでしたか。「多様な教育的ニーズに応じた支援や指導のあり方」という言葉のもつ重みと、そこに含まれる子どもたちの未来につながる可能性について、どのように感じたでしょうか。

現在、私たちの目の前にある教育現場は、かつてないほど多様性に富んでいます。統計によれば、全国の特別支援学級に在籍する児童生徒数は直近１０年間で２倍以上に増加し、外国にルーツをもつ子どもたちも急増しています。また、不登校やその傾向にある子、あるいは一斉授業の中で学びのペースに葛藤を抱える子や、学習内容につまずきを感じている子など、子どもたちが抱える背景や課題は千差万別です 。こうした一人ひとりの異なる教育的ニーズを的確に把握し、その可能性を最大限に引き出す教育の実現が、今まさに求められています 。

特集では、長年本市の支援教育に携わってこられた玉川大学の安藤正紀先生より、ご寄稿をいただきました。安藤先生は、学校の中だけで閉じた教育ではなく、「助けたり、助けられたりする」インクルーシブ社会の実現が先決であることを説かれています 。特に、子ども自身が「自分の学び方」を発見し、自己理解を深めることで「助けられ上手」になるという視点は、これからの共生社会を生き抜く子どもたちにとって欠かせない力となります 。安藤先生の温かな視点とご教授いただいたことは、日々の実践に悩む私たちに、子どもに寄り添うことの本質を再認識させてくださいました。

あわせて本号では、大野南中学校分校の取組、今年度新設された支援教育課や教育相談課、そして各校の研究実践を紹介しました 。支援や指導の正解は一つではありません。しかし、ユニバーサルデザインの視点、生成 AI や ICT 活用を取り入れた授業改善など、新しい手立てを学び、視点を増やすことで、子どもたちが未来を切り拓く鍵は見つかるのではないでしょうか。現場の先生方が日々、子どもたち一人ひとりの学びに寄り添うために、研究や取組を進めている姿からは、子どもたちを支援する学校・教育委員会が一体となって、考え方をアップデートしていく必要があるというメッセージをいただいた気がしました。

本誌が紹介した様々な視点や手だてが、先生方の実践を振り返り、明日からの子どもたちとの関わりを照らすヒントになれば幸いです 。

最後に本号の編集に際し、原稿執筆及び写真提供等にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

ホームページアドレス　https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/

※本冊子の無断引用・転載・複写を禁じます。